

## 昔と変わらぬ輝きを放つ

### 富良野市 SL保存会



▲機関室内など細部にわたり清掃する保存会会員

文化会館の横に設置された蒸気機関車「フライノイ号」。昭和50年に現在の場所へ輸送されてから40年余りが経過した今も、当時と変わらない輝きを放っています。この状態を維持管理するために組織された富良野市SL保存会（辻沢寅男会長）は、旧国鉄機関区のOBや愛好者など現在68人が会員となり、車体を後世に残すための活動を展開し

ています。保存会の主な活動は、毎年4月から11月にかけてフライノイ号の清掃と管理を月1回行うことと、数年に1回のペンキ塗り。活動はすべてボランティアで行われ、大きな車体と機関室内を約3時間かけて磨き上げていきます。清掃終了後は、必ず参加者で交流会を開催し、会員同士のコミュニケーションを図りながら昔話に花を咲かせることもあるそうです。この他に保存会では、他の市町村で保存している蒸気機関車を見学する研修旅行も行われています。また、過去にはミニSLを保存会メンバーで動かすなど、子どもたちを楽しませるイベントも実施していました。



▲昭和50年7月12日に行われたSLの輸送作戦  
※富良野市史第3巻より抜粋

「長い会員として活動していましたが、若い人が入会しないのと同時に会員も高齢になってしまいました」と話す辻沢会長。清掃は高い場所での作業をとまなうことから、平成28年の春で保存会としての活動を休止する予定です。

「長年休まずに続けられたのも、たくさんの人たちが関わってくれたおかげだと思います」と振り返る辻沢会長。保存会の活動が休止されるまでの間、「ずっと残したい」という思いを胸に、フライノイ号の維持管理は続けられます。



▲冬囲いを外し、今年最初の作業を終えた保存会会員